大藤小学校

「自ら考え，課題を解決できる児童の育成」
～思考力・判断力・表現力を高める指導を通して～

Ⅰ　研究内容

1　研究内容と方法

（1）研究内容

ア　理論研究（思考力・判断力・表現力について）
イ　授業実践および授業公開の実施
ウ　一人一実践の取り組み
エ　児童の実態把握（学習アンケート等）
オ　言語活動充実のための日常的な取り組み
カ　学習規律・学習環境作りのための日常的な取り組み

（2）研究方法

ア　全職員の共通理解を図るために，全体研究会を中心に研究を行う。
イ　講師を招いて，Ｑ－Ｕ検査等から児童の実態にあった理論研究を行う。
ウ　授業研究をし，授業公開を行う。
エ　児童の思考力・判断力・表現力や家庭学習に関わるアンケートを行い，児童の実態や変容について把握する。
オ　ＮＲＴ検査やＱ－Ｕ等から児童の実態を把握し，具体的な指導法を研究する。

2　具体的な取り組み

（1）学び合い活動

ア 問題解決型学習等における学び合い
◇ペア学習・少人数学習から全体へ
→自分の考えを相手に説明する→わかりにくいことを修正しようとする→全体で話し合う→発言をつなげる→話し合いから考えを修正・付加する

イ 発表時における学び合い
◇小グループでの話し合いから
→グループで意見をまとめる→複数の意見の類似点や相違点に気づく→発表時に他者の考えを説明することで思考が深まる

（2）表現活動

ア 声に出す活動
◇音読をする（音読カード・発表会・群読・暗唱など）。
◇スピーチをする（朝の会・帰りの会など）。
◇自分や友だちの考えたことを発表する。

イ 書く等の活動
◇発表ボードや黒板など，プリントやノート以外のものにも書く。
◇日記やあのね帳を活用する。
◇学習感想を書く。
◇自分が考えたことを，言葉・図・式・絵・身体表現などを用いて表現する。

（3）言語活動

ア 読書活動
◇朝読書・読み聞かせ（職員・図書委員・外部団体）
◇語彙を増やす取り組み（国語辞典・漢字辞典等の日常的な活用）

（4）学習規律の確立

ア 学習の前に
机・椅子の高さ，筆箱の中身，机上に置くもの等を確認

イ 授業の中で
問題解決型学習の取り入れ，ノート指導，ミニ定規の活用，国語辞典の活用

（5）Ｑ－Ｕ分析

ア 全校プロット図の作成
第１回の結果を受け，全校児童のプロット位置を確認し，全校プロット図を作成。

イ 各学級ごとのＱ－Ｕ分析
ネガティブチェック・Ｋ－ 13 法（簡易版）を取り入れたＱ－Ｕ分析を実施。全職員で検討会を行い，各学級の実態に応じた取り組みを実践。

3　具体的実践

（１）学習会

「学級づくり～Ｑ－Ｕを活用して～」

講師　　塩山中学校研究主任　　藤原祐喜先生

「学級づくりのための教育カウンセリング

～構成的グループエンカウンターを取り入れて～」

講師　　甲州市スクールカウンセラー　　長尾雅裕先生

（２）実態調査

５月　思考力・判断力・表現力等に関わる学習アンケート１回目実施

２月　思考力・判断力・表現力等に関わる学習アンケート２回目実施

（３）授業実践

ア　研究授業

・第３学年　廣瀬尚子教諭　算数科　「はしたの大きさの表し方を考えよう」

・第５学年　荒井祐貴教諭　国語科　「大造じいさんとガン」

イ　授業公開（一人一実践）

・第１学年　金井京子教諭　国語科　「じどう車くらべ」

・第２学年　藤原和美教諭　国語科　「しょうかい文を書こう」

・第４学年　岩下和子教諭　社会科　「はんこの里のまちづくり」

・第６学年　小野紀男教諭　社会科　「順序よく整理して調べよう」

・なかよし　武井敏江教諭　算数科　「１００より大きい数」

・教務主任　土屋弘明教諭　理科　「人のたんじょう」

Ⅱ　成果と課題

1　成果

（１）今年度は，ＮＲＴ検査の結果等を踏まえ，国語科・算数科・理科・社会科における思考力・判断力・表現力について研究や実践を行ったことで，学力向上や授業改善に向けて研究を深めることができた。

（２）学習規律や朝学習・家庭学習への取り組みなどを全職員で確認したことにより，同一歩調で学力向上に向けての指導ができた。

（３）８月と９月に講師をお招きし，学級づくりについての学習会ができたことで，Ｑ－Ｕ検査の結果を学力向上や日々の学級経営に効率的に生かすことができた。

（４）甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとの連携もはかりながら，研究を進めたことで，家庭や地域の学力向上に対する関心も高まった。

（５）ペア学習やグループ学習などの学び合い活動や，発表の仕方を工夫した表現活動などに日常的に取り組んだことで,それらが児童に定着している様子が見られた。

（６）研究授業では，授業者が研究の方向性を意識した授業展開を図り，どちらも検証授業として生かされる内容で，日々の実践に役立てることができた。

（７）一人一実践の取り組みでは，様々な教科の授業を参観することができて，手立てや指導法など，とても参考になった。

（８）２度にわたる学習アンケートやＱ－Ｕアンケートの実施により，児童の実態や変容を把握することができたことは，大変有意義で，以後の対応や指導に役立てられた。

2　課題

（１）思考力・判断力・表現力を高めるためのより具体的な手立てについて，もう少し学習・実践・検証できるとよかった。

（２）ＮＲＴ検査等の結果分析から，さらなる学力向上に向けて，各学年ごとの実態に応じた有効な指導法の研究も必要ではないか。

（２）次年度へ向けて，研究組織における全体研究会とブロック研究会のもち方を確認していくとよい。

Ⅲ　成果物

1　研究授業及び公開授業の指導案８点

2　思考力・判断力・表現力および家庭学習に関わるアンケート結果（２回実施）

3　Ｑ－Ｕアンケート結果（２回実施）および全校プロット図

（研究主任　金井京子）